

予算決算委員会会議録

1. 開催年月日

令和3年 6月25日 開会 9時57分 閉会 11時35分

2. 開催場所

全員協議会室

3. 出席委員名

沖久教人	三宅孝之	原田敬久	多賀信祥
柳原英子	山下憲雄	細羽敏彦	西村慎次郎
荒木謙二	柳井一徳	惣台己吉	三宅文雄
坊野公治	上野安是	西田久志	宮地俊則
佐藤豊			

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 大滝文則

(2) 説明員

副市長	猪原慎太郎	総合政策部長	安東慎吾
総務部長	藤原雅彦	市民生活部長	井口勝志
健康福祉部長	佐藤和也	建設経済部長	岡本健治
総合政策部次長	西村直樹	総務部次長	久安伸明
市民生活部次長	藤井清志	健康福祉部次長	沖津幸弘
建設経済部次長	田中大三	芳井支所長	今井保文
美星支所長	藤井義信	健康福祉部参与	三宅早苗
企画振興課長	岩本展到	危機管理課長	金政吉伸
財政課長	片井啓介	税務課長	吉本泰人
市民活動推進課長	毛利恵子	子育て支援課長	岡崎祐一
観光交流課長	小谷拓也	農林課長	中山浩一
建設課長	曾根剛	都市施設課長	田口政之
企画振興課長補佐	片山直紀	総務課長補佐	伊藤圭史
市民課長補佐	岩本陽子	福祉課長補佐	藤田昌巳
建設課主幹	森川正康		

教 育 長	伊 藤 祐 二 郎	教 育 次 長	唐 木 英 規
学 校 教 育 課 長	平 木 康 晴	生 涯 学 習 課 長	成 智 千 恵
ス ポ ー ツ 課 長	川 上 益 史	教 育 総 務 課 長 補 佐	亀 田 博 行

(3) 事務局職員

事 務 局 長	和 田 広 志	事 務 局 次 長	藤 原 靖 和
---------	---------	-----------	---------

6. 傍聴者

(1) 一 般 0名

(2) 報 道 1名

7. 発言の概要

委員長（佐藤 豊君） 皆さんおはようございます。

ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

初めに、副市長のご挨拶をお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 皆さんおはようございます。

台風5号が発生をしております。こちらのほうへ近づいてきておりますけれども、台風5号による直接の被害というものは、中国地方には今のところあまり影響はないのかなというふうに思っております。しかしながら、台風の接近に梅雨前線が刺激をされまして、この週末から週明けにかけて本州へ北上をしていくといった予報も出されております。今後の気象情報には十分気をつけていきたいと思っております。

先般国のほうで経済財政運営と改革の基本方針2021、いわゆる骨太の方針と言われているものが6月18日に閣議決定をされております。その中で、成長を生み出す4つの原動力の推進というものがございまして、1つ目はグリーン社会の実現、これは脱炭素の関係でございまして、2つ目が、官民挙げたデジタル化の加速、デジタルトランスフォーメーションといった言葉が今よく使われておりますが、そういった関係です。3つ目が、日本全体を元気にする活力ある地方創り、地方創生の分野ということでございまして。最後、4つ目ですが少子化の克服、子供を産み育てやすい社会の実現という、この4つの原動力を推進するというものでございまして。まだ具体的に詳細は示されておられませんけれども、グリーン、デジタル、地方活性化、子供子育て、この4点に重点的に予算を配分していくといった大きな方針が出されたところでございまして。今後の国の動向、情報をしっかり収集をしまして、来年度予算に向けてしっかり財源を確保していきたい、そういった情報収集に努めていきたいと思っております。

そういった中、本日は予算決算委員会を開催していただきまして、皆様方には何かとご多用の中、お繰り合わせご出席をいただいております。誠にありがとうございます。

この委員会に付託されております案件でございますが、一般会計並びに産業団地開発事業特別会計の補正予算ということでございます。皆様方におかれましては、慎重にご審議をいただきますようよろしくお願いいたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

〈議長挨拶〉

〈議案第37号 令和3年度井原市一般会計補正予算（第3号）〉

〈歳入全般〉

〈なし〉

〈歳出第15款 総務費〉

〈なし〉

〈第20款 民生費〉

〈なし〉

〈第25款 衛生費〉

〈なし〉

〈第35款 農林水産業費〉

委員（山下憲雄君） 28ページ、29ページの畜産業費についてご質問します。

5つありますけれども、この畜産クラスター協議会の代表者名、所在地及び主な組織構成について教えてください。

農林課長（中山浩一君） 畜産クラスター協議会の会長でございますが、美星町観光協会の会長も兼ねられております西野昇氏でございます。主な組織構成でございますが、構成員といたしましては現在18団体の方々により構成をされております。畜産農家の方でありますとか、畜産業に携わっておられる方、それから農協といったような方々が加わっている組

織でございます。この組織でございますが、国がT P P対策として行います畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業費の補助金を受けるために、行政でありますとか畜産団体といったようなものの構成員の連携の下に計画、目標を立て、目標達成のため取組を推進するというを目的として交付をされるものでございます。ですので、主な事業といたしましては、構成をされておる団体、畜産農家になるかと思いますが、そういった方々が機械整備でありますとか施設の整備といったようなものを行うということを主な活動とされております。

委員（山下憲雄君） 所在地をお願いします。

農林課長（中山浩一君） 失礼しました。

美星支所美星振興課を事務局としておりますので、所在地といたしましては美星支所の住所になるかと思えます。

委員（山下憲雄君） この畜産クラスター協議会の今回の事業計画ですが、この事業主体者名というんですか、そのことと、それから今回2つの事業が上げられておりますが、約3億5,500万円の予算の中で、家畜飼養監視施設に関する事業と家畜排せつ物処理施設に関する事業で約3億5,500万円、これは補助率が2分の1ということなんですけども、この2事業のそれぞれの事業の内訳がお分かりでしたら教えてください。

農林課長（中山浩一君） まず、申し訳ないのですが、先ほど私は所在地について美星支所と申し上げましたが、畜産クラスター協議会の規約によりますと井原市役所というふうになっておりますので、所在地といたしましては井原市役所の住所ということで訂正をさせていただきます。申し訳ございませんでした。

先ほどのお尋ねでございます。

今回の取組主体は、岡山J A畜産株式会社でございます。ここがされる事業といたしまして、美星町大倉地内へウィンドウレス鶏舎を建てられる、それから卵を集める収卵室、それから堆肥化施設を建てられるということと、それに伴う附帯設備ということの計画でございます。

それぞれの事業の内訳についてでございます。

まず、家畜飼養監視施設、鉄筋造りの鶏舎等々です、こちらの事業費が6億1,115万4,395円、それから家畜排せつ物処理施設の建設費用、これが1億1,181万1,255円、合わせて7億9,526万2,215円の事業計画でございます。

委員（山下憲雄君） 事業主体者名が聞き取りにくかったので、もう一回お願いいたします。

農林課長（中山浩一君） 岡山J A畜産株式会社です。

委員（山下憲雄君）　それで、そういったクラスターで目的もいろいろ書いてあるんですけども、これは市がこの手続に関わっているということだと思いますから、当然ここへ計上されているわけですけども、前年度の予算にも12億円ぐらいの予算がこれは計上されておったかと思います。今回も約3億5,000万円という非常に高額な予算なんですけど、これの後追いというんでしょうか、事業目的に対する成果等々については、その後のチェックというのは市のほうでもなされるんでしょうか。というのは、例えば雇用者数が現在幾らで、これを行うことによってどれぐらい成長するんだとかといったようなことが書かれている事業内容のその成果の後追い、つまり講評がなされて、それが我々もチェックできる機能、制度になっているのかという点を教えてください。

農林課長（中山浩一君）　この事業でございますが、国の補助金を使う制度でございますので、国の制度に基づいて実証等々については行っていくものと考えております。

委員（山下憲雄君）　事業計画を見て、手続は市を通過して国なり農林水産省に出されるわけですよね。そうしたとき、その事業計画が市においても、なぜかといったらこれは井原市と先ほど言った施設関係が、井原市に関する建物を改善、改築されたり増設されているいろいろな強化を得られたりすることが、それによって井原市のいわゆる畜産業に大きな影響がまた成果があるということが前提にならないと、よそのやっている仕事に手は加えられないと思いますが、そこらあたりでこの事業計画に書いてあることを市として検証することができるのか。またその計画表がどこかに公開されていて、我々も閲覧なりをすることができるのかということを知っているんです。

農林課長（中山浩一君）　まず、この制度につきましては、取組主体がされることにつきまして、国が市を通して補助を交付するという事業でございますので、例えば市の公共施設を開設するとかという事業では今回の場合はございません。ただ、確かに今回岡山JA畜産株式会社が継承されるということで雇用も増えますし、当然市内で使用されるということであればそれなりの収入も上げられるということでございますので、市が直接ということではございませんが、取組主体は十分潤うのではないかとこのように考えております。

また、講評につきましては、国の制度でございますので、申し訳ございませんが、講評のされ方がどのような講評をされるのかということは承知をしておりますが、もちろん市といたしましても監査といいますか、時々にはそういったようなことも注視はしてまいりたいというふうに考えております。

委員（山下憲雄君）　いま少し理解ができないんですが、この2事業のいわゆる監視施設の鉄筋造り3棟ともう一つの堆肥化施設の一式というのは、井原市内にある設備ですか。

農林課長（中山浩一君）　美星町大倉地内に岡山JA畜産株式会社が整備をされる施設で

す。

委員（三宅文雄君） ため池廃止事業の31ページの農地費の分で、ため池廃止工事負担金ということで、先般いただいた資料では廃止工事負担金ということで2つの池、石井池と石井上池で2、200万円計上されておりますが、この廃止工事というのはどういった工事になるのでしょうか。

農林課長（中山浩一君） 廃止工事につきましては、工事そのものについては池の堤体を掘削して、水がたまらない状態にするという工事でございます。負担金となっておりますのが、これは県へ委託をして、県が工事をされるということで、岡山県へ負担金を支払うものでございます。

委員（三宅文雄君） ということは、例えば池でしたら堤防がありますよね、そして水がたまるところがあるんですけれども、その堤防も撤去して、周囲の山林であればその山林にすとか、畑や田んぼであればその堤防だけを撤去して原状に復帰するというような工事になるのでしょうか。

農林課長（中山浩一君） 基本的には、堤防を掘削して、原状といいますか山林化をしていくということになるかと思えます。

委員（三宅文雄君） それともう一点、測量設計業務委託ということで新池と竹友池の2つの池について800万円を計上されておられますけれども、この業務委託についてはどういったことを目的に測量設計業務を委託されているのでしょうか。

農林課長（中山浩一君） この新池、竹友池につきましても、農業用の利用がなくなり、地元の合意が取られた池ということで、廃止を進めていっております。その委託でございますが、廃止工事のための測量設計の委託でございます。

委員（山下憲雄君） 29ページの有害鳥獣被害防止対策協議会補助金というのが2、780万円ほどあります。これの協議会の名称、これは1つなのか複数なのか、その補助金の交付による成果を何か上げられていることがあったら教えていただきたいと思えます。

農林課長（中山浩一君） これは、井原市有害鳥獣被害防止対策協議会、この協議会が1つでございます。

この協議会の成果でございますが、まず防護柵、ワイヤーメッシュにつきまして、これを例年といいますか話がまとまったところから行っているということで、こちらについては被害防止の観点から有用なのではないかと考えております。

また、昨今増えております猿の被害ということで、これは昨年でございますが、昨年この事業で猿の小型おりを購入しております。この小型おりを導入したことによりまして、猿の捕獲頭数も増えておりますので、個体数管理には十分役に立っているというふうにご考えてお

ります。また、捕獲ということで、いわゆる有害捕獲につきましても十分な成果を上げているものと考えております。

〈なし〉

〈第40款 商工費〉

委員（山下憲雄君） 観光土産品開発支援事業について伺います。

これは、事業者は10社ということ想定されておるんですけども、この10社の業種、業態、あるいはどういうふうに公募される予定なのかをお聞かせください。

観光交流課長（小谷拓也君） 先ほどの10社の事業者のことですが、お菓子事業者やデニム事業者などの複数の事業者を想定しております。そして、幾つかの業者を訪問して意見を聞く中で、協力をしていただけるという前向きな考えもいただいておりますので、ぜひ10社を実現していきたいと思っております。

委員（山下憲雄君） 10社、公募というんですかね、何かこういうことを考えているから開発してというようなことというのはデニムとかお菓子とかといたら、これはこっちが考えたことであって、アイデアとしてはいろんな先から、ここによらず、例えば彫刻のまちでもありますのでそういう方面から何かがあるよとか、いろいろありますので幅広く、これを機会に、渋沢栄一がこのたび大河ドラマに出たということで、これもタイムリーで、ある時期を、ピークを過ぎますとさっと消滅したりしますので、その辺のかけ方というのは業者側も大変その辺は慎重になっているケースもありますので、市側としての、せっかくここで300万円の経費が生きていくようなアプローチのためには、何か自分ところのことをこの2つ以外にも、10社というのはどういうことがあるかというのを明快にできるだけ方向を考えていただきたいなと思っております。

委員（多賀信祥君） 緊急経済対策費のワーケーション推進事業について伺いたいんですけど、見込める需要というリサーチはどのようにされたのか伺います。

美星支所長（藤井義信君） 需要のリサーチということでございます。

ワーケーションが利用できる体制を整えていくということで整備を進めておりますが、実はまだまだ全国的にもワーケーションとしての利用というものが定着してない状況であります。調べますと、2015年ぐらいに大手航空会社のほうが取組をされたということですが、この対象としても大都市を対象にしたものであります。まだどれだけの需要があるかというところまでのリサーチはできてないところであります。これからそういった大都市圏

に向けてこういった受け入れる体制ができているということをアプローチ、広報しながら、今施設の整備を図っているところであります。

委員（多賀信祥君） 後の歳出全般で言わせていただこうと思ったんですけど、3月決算で非常にダメージを受けている業種というのが明らかになって、当然そのリサーチはされているんだと思うんですけど、それよりも優先してこれをするということだと、今回はこういう提案だと思うんですけど、やはりそれをやっていくそれなりの理由があるのかなと思って伺ったわけです。言い方を替えると、困られている方への対応をするよりもこっちを優先している。そうであつたら、命運をかけて井原市としてやっていく事業ということであると、どういったPRをされるのでしょうか。

美星支所長（藤井義信君） 実は昨年も補正予算を上げておりまして、そのときにはLANの環境整備であるとかプリンターであるとか、そういったテレワークができるような環境を整備いたしました。今回ちょうど緊急事態宣言が出されて、今は解除されておりますが、まだまだ見通しが立たない状況である中で、まずはワーケーションができる体制を整えて、それプラス安心して利用できる体制も、新型コロナウイルス感染症対策に主を置いた今回整備としておりますが、市内等に向けてのPRというところは今後検討して、利用のほうを促進していきたいと思っております。

委員（多賀信祥君） 飲食、観光、商工でいうと、それよりも優先される理由が聞きたかったんです。

美星支所長（藤井義信君） ここで上げておりますのが、もともとワーケーションの利用ということもありましたが、まずは会社に出勤せずに仕事ができる、そういったことも新型コロナウイルス感染症対策の一つとして企業で取組が行われているところなんですけども、新型コロナウイルス感染症対策の一つとしてもワーケーションを推進していくということで今回上げさせてもらっています。

委員（三宅文雄君） いばらぶ学生エール便についてお伺いをいたします。

昨年も補正で予算が上がってきたと思うんですけども、昨年のいばらぶ学生エール便と今回予算計上されたいばらぶ学生エール便について、変更点が何点かあるかと思えますけれども、どういった点が変わったのかということをお示してください。

企画振興課長（岩本展到君） それでは、昨年のいばらぶ学生エール便との変更点ということでのお尋ねです。

内容といたしましては、昨年の内容とほぼ一緒なんですけど、昨年はまだコロナ禍が始まって全く見通しが立ってない状況の中で、マスクが非常に不足していた時期でございまして、今回この資料にありますように昨年はふるさと納税の返礼品のお米であるとか食料品である

とかクオカード、それに加えてマスクを入れていたわけなんです、現在マスクの供給は十分足りているという認識でありまして、マスクを入れずに代わりに地場産品であるデニム製品、今思っているのはオリジナルのデニムのペンケースを、井原高校の生徒のご協力、あるいは社会福祉協議会のボランティアの方のご協力をいただいて、井原のデニムを使ったオリジナルのペンケースを送ってあげると、井原市からの思いが伝わるかなと思って、そういったものを今回は入れたいと思っております。

先ほども申し上げましたように、今回昨年と違うのは、市内の高校生にご協力をお願いしているというところ、井原市を出られている先輩方へ支援してもらうことで、井原市にいる子たちが井原市を出た先輩を応援するということが、一つのシビックプライドであるとか、行政に携わることでまた井原市への思いが深まるというようなことにつながればいいと思って、そういったことをお願いしようと思っております。大きく変わった点はそのあたりです。

委員（三宅文雄君） 対象者については、前回と全く一緒という理解でよろしいでしょうか。

企画振興課長（岩本展到君） 対象者は昨年と一緒でございます。

委員（三宅孝之君） 先ほど多賀委員がおっしゃった30ページ、31ページの商工費の緊急経済対策費、新型コロナウイルス感染症の関係でレストランとかいろんなところの飲食店で困っているところがたくさんあると思うんですけども、そういったところの支援策というのはないのでしょうか。

副市長（猪原慎太郎君） 多賀委員それから三宅委員から質問いただいております。

新型コロナウイルスによって打撃を受けた業種とすれば、おっしゃられるとおり、飲食それから観光それから公共交通の分野もあろうかと思っております。

まず、飲食店への直接的な補助ということにつきましては、今回国の交付金を受けて岡山県のほうで時短それから休業要請、そういったことに従われた店ということにはなりませんけれども、そういった支援のほうをされておりますし、それから昨年から著しく所得が減った飲食店につきましては、別途補助が出されるといった制度も県のほうでつくっておられると認識をしております。

それから、観光、公共交通の分野におきましては、観光バス業者に関する助成のほうも議会のほうで認めていただいております。ただ、観光の分野は今止まってしまっておりますし、今後の仕事の起こり方といいますか動きのほうを注視していきたいと思っておりますし、また直接的な助成、補助ということになると相当な財源が必要ということは思っております。今後のコロナ禍の進捗状況、それから国の今後の交付金なりの財政の支援状況、その

辺を踏まえて考えていきたいと思っております。

委員（三宅孝之君） ありがとうございます。県と国の補助が十分賄えられているという
ことで、よく理解しました。

また別の件で質問させてください。

30ページ、31ページの商工費の中で、31ページの需用費、1,200万円で消耗品
費を計上してありますけども、これはどんな消耗品になるのでしょうか。

企画振興課長（岩本展到君） いばらぶ学生エール便の中へ入れて学生へ送る、支援する
品物を買う費用がこの中に全て入っております。具体的に言いますと、地場産品であるお米
でありますとか、昨年ですと焼き菓子とかかりんとうとかを入れております。今年も、ふる
さと納税の返礼品にご協力いただいている業者のほうから、この需用費の消耗品費の中から
購入して、箱に詰めて送らせてもらおうと思っております。

委員（三宅孝之君） ありがとうございます。よく分かりました。

また別の質問なんですけども、31ページの一番下、工事請負費で2,900万円計上さ
れています。施設整備工事費ということで、施設というのはどんな施設なのかお伺いしま
す。

都市施設課長（田口政之君） 工事請負費の施設でございますけれども、井原駅ビルでご
ざいます。

委員（三宅孝之君） 井原駅ビルのどんなところの整備工事費ですか。

都市施設課長（田口政之君） 井原駅ビルの空調設備の整備でございます。

委員長（佐藤 豊君） 補正予算説明資料の中に詳しいことが書いてあると思いたすので、それを参考にして、それ以外で質問をしていただければと思います。

委員（原田敬久君） いばらぶ学生エール便についてお伺いします。

学生に送る品物なんですけれど、これは井原市が全て決定するのでしょうか、あるいは学
生のほうからこれを送ってほしいという希望を受け付けてくださるのでしょうか。実は、私
たちに非常に近い青年団体があります。彼らが不定期ですがきぼう市というのをやっている
んです。これは学生が欲しがるものを無料で配るということなんですけれど、柳原委員の一
般質問にありましたが、今生理用品が物すごく喜ばれるんですよ、直接これは聞いたん
ですけど。ですから、希望される方にはそういったものも併せて送っていただくという
ことができるのでしょうか。学生の希望に合わせて品物を送る、できるかどうかをぜひ教
えてください。

企画振興課長（岩本展到君） 現在のこの段階ではそういったことを想定してないん
ですが、そういうことができるかどうかは一度研究させていただかないといけないかなと思
って

います。

委員（上野安是君） 32ページ、33ページの産業団地開発費、3,700万円です。補正予算説明資料の19ページ、内容の中でこういう理由で3,700万円が増額になったという書き方をしている、内容の上から3行目、「交付金の配分額が当初予定額より少なかったことにより」という話ですが、この当初予定額が少なくなったというのは一方的に少なくなったのか、それとも何か特別に変わったことがあったのか、見込みが違ったのか、その辺の説明ができればお願いしたい。

副市長（猪原慎太郎君） 稲倉産業団地線を整備するに当たりまして、国の交付金、補助金を活用して工事をする予定にしておりました。産業団地の工事着手の前に用地交渉をしている段階がございまして、そのときに不測の日数がかかってしまいまして、随分と遅れたことがございました。それによってその当時、要は内示を受けていた金額、その金額全ては覚えておりませんが、1億何千万円かの内示をいただいていた工事ができなかった、用地が買えなかったためにできなかったということで、実はその交付金を国へ返したことがございます。ここから先は推測でありますけれども、ペナルティーとして、その翌年度こちらが要求した金額どおりの交付金をいただくことができなかったということでございます。

委員（上野安是君） ということは、当初予定していた工事が遅れて、その結果予定どおりの土を持っていけなかったもので、新たな工事から土を持っていく、その予算については今後カバーもできないというイメージで思っておけばいいですか。

副市長（猪原慎太郎君） 今回3,700万円を稲倉産業団地の宅盤部分で追加でお願いしております。その代わりに市道部分でその3,700万円は減額をしますので、プラス・マイナス・ゼロということにはなりますけれども、何年か前に返した財源というものが補填されるということにはございません。

〈なし〉

〈第45款 土木費〉

〈なし〉

〈第55款 教育費〉

〈なし〉

〈歳入歳出全般についての質疑〉

委員（多賀信祥君） 主に歳出についてですが、先ほどの続きで、コロナ対策の臨時交付金の予算配分の決定のプロセスを教えてくださいたいと思います。

副市長（猪原慎太郎君） 経済対策のほうからのコロナ対策の決定のプロセスということでございますが、全体を束ねる、調整する役として、事務局は企画振興課が持っております。まずは、それぞれの担当課へ全て照会をかけます。財源を最大限に活用したコロナ対策の政策がある場合は、予算を伴うので、いついつまでに出してほしいということで全ての課へ出します。その後、それぞれの課から出たものを持ち寄って、評価委員会というようなもの、要は部長以上の幹部メンバーでございますが、そこへかけます。その中で、言ってみれば査定をかけるということで、当然上がってきた中で今回この補正予算の中には入っていないものもございますし、そういった中で新たに加わったものとかもございます。プロセスとすればそういったことでございます。

委員（多賀信祥君） 先ほども触れましたけど、経済学的な見地でいうと、国全体でいうとへこんだところというのが明らかになってきている、それに対して国からお金を投入されている、そのへこんだところには一切行かず、ほかの業種に分かれている、本市でもそのような形になっていて、業績が悪化されたところにお金が渡りにくくて、それ以外の業種では黒字の決算が出ているところも数多く見られるというところというところ、今何ができるかというとなかなか難しいとは思うんです。先ほど副市長が言われましたけど、観光については一切止まっている。ただ、どこで盛り返していくかという準備を市がされているのか、その都度下りてくる臨時交付金を満遍なく使って行って、一番問題なのは、井原市自体が困っている業種に対して落ち着いたら盛り上げていかないといけないという機運ができてない気がするんです。だから、やはりそういうところというのは予算配分の影響もあるのかなと思っていて、ここで聞きたいのは、その準備をされているのか、また予算を使っていく中で決定のプロセスが困っているところを重点にまず取って、それ以外を今副市長が言われたところで担当課から上がってくるのかと思っていたので、それについて伺ったんですけど、質問としては今後どのような対策をされるのかについて伺いたいです。

副市長（猪原慎太郎君） 今後どのような対策をするのかということでもあります。

多賀委員のおっしゃられることはごもっともでございます。一番打撃を受けたところをしっかりとリサーチして、そこへ集中的に補助を打つ、助成する、もちろん大事なことであろうと思います。今回の予算計上をするに当たって、評価委員会の中でもそういった議論は現

実に出てきております。ただ、そういった中、先ほども少し申し上げましたけれども、直接的に打撃を受けておられる事業所を支援するには相当な財源が必要ということで、現在そこまでの財源がなかったことが一つの理由ではありますけれども、先を見越したことをしているのかということにつながってくると思うんですが、今回の補正でお願いをしているのは、アフターコロナ、新型コロナウイルスが終息した後に井原市に人が来てくださるための条件整備、環境整備に今回は力を入れようというのが、評価委員会の中での結論といたしますか共通した認識であります。

しかしながら、岡山県は、2月議会だったでしょうか、そこで初めて直接的な補助の制度を設立されました。ほかの県では随分前から直接的な補償をしている県があったんですけども、岡山県はなかなかそういった支援はされておりましたが、ここでそういった直接補助を打ってこられたということでもあります。

今後追加の配分があるのかなのか、全国知事会では追加の交付金の配分をしてほしいという要望も出されております。それがつくのかつかないのか、ついた場合どれぐらいのものが井原市に入ってくるのか、そういったものをしっかりと周知しながら、新たな手だて、打つべき手だてというものは引き続き考えていかないといけないと思っております。いつ頃これを打つということは今の時点では具体的には申し上げられませんが、これからもしっかりと考えて、検討していきたいと思っております。

委員（山下憲雄君）　今回は補正で主な18事業、ここへこうやって事業名を上げて補正を組んでいただいたわけですが、そのうちの11事業が新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金という名称の下で取っていただいたわけですが、これはもっと取れたものなのか、いわゆる国は1次、2次、3次という、どんどんその交付金の決定をそれぞれしてきておりますので、そういうことで、もっと取れたんだけども、事業の我々のこのアイデアである事業企画力がなかったがために取れてないといったようなことがあるのかなのか、そこを教えてください。

副市長（猪原慎太郎君）　山下委員の質問でありますけれども、国の交付金というものが今回の補正の主な財源となっております。その交付金であります、この補正予算後でいまして、あと残りが1,680万円といった状況でございます。財源がもっとたくさんあれば、新たな事業ということも考えられるんだろうとも思っておりますけれども、現時点で国のほうからこれだけのものが入ってくるということはありませんし、この交付金の性質上、市町村から今後こういった事業をするので交付金を増額してほしいという仕組みにはなっていないということでもあります。

委員（山下憲雄君）　今おっしゃった1,680万円というのは、まだ今後事業企画の余

地があるということですね。この説明資料に補助金の充当予定というふうに全て明記してありますけども、新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金があります、財源のところでは10分の10を充当予定というふうになってはいますが、この言葉の意味を教えてください。

財政課長（片井啓介君） 交付金、このたび令和3年度は2億9,066万円ということで予算はスタートしております、こちらにつきましては10分の10充当予定ということで、普通であれば100%交付金をいただけるということですが、事業の積み上げによりましては歳出のほうがオーバーするということもございます。ということで、100%にならない場合も出てくるということですので、全部に当てはまるかどうかは最終的には分からないけれども、一応この交付金を充てるという意味でございます。

委員（山下憲雄君） 交付は決定しているけどもという理解ですね。交付は決定しているわけですね。

財政課長（片井啓介君） 金額的な交付内容は決定されておりますし、一部事業についても決定、内示のほうはいただいております。

委員（三宅文雄君） 補正予算説明資料の3ページの中で、移住・定住・交流推進支援事業補助金ということで、内容で補助対象者が井原デニムをはこうプロジェクト実行委員会になっておるんですけども、これはいつできた組織なんですか。それから、その補助対象事業はどういうふうにして事業を進めていかれるのか教えてください。

企画振興課長（岩本展到君） 実行委員会を立ち上げた時期ですが、明確に何月何日というところまでは今手元へ持っておりませんが、昨年度立ち上げております。

今回の事業の内容ですが、この3ページの補助対象事業の①から③へ充てられる予定としております。

進める手順ですが、まずこの補正予算を可決いただきましたら、直後にこの事業の参加者の募集をかけまして、参加者によるジーンズの製作でありますとかデニムのジーンズの販売、そのほか井原デニムの魅力を紹介する冊子の制作に取りかかったり、参加者による工場見学ツアー、あるいは井原デニムのクリエイターの養成講座、それから参加者交流イベント等を今年度予定しております。

委員（三宅文雄君） 昨年度立ち上げられたということなんですけれども、この委員会はどこにあってどういった方々がメンバーになっておられるんでしょうか。

企画振興課長（岩本展到君） この実行委員会のメンバーですが、市内の地域商社、それから一般財団法人井原デニムストリート、それから井原商工会議所、それから市内でデニムを縫製されているような被服を主とされている事業所の方々、それから事務方として市の職員、それから地域おこし協力隊並びに協力隊をもう卒業された方、そういった方で実行委員

会は構成されております。

委員（三宅文雄君） 何人ぐらいおられますか。

企画振興課長（岩本展到君） メンバーとして名簿に上がっているのは14名です。

委員（三宅文雄君） この委員会はどこにあるのでしょうか。井原商工会議所の中ですか、それとも市役所の中にあるんですか。

企画振興課長（岩本展到君） ちょっと確認のお時間を下さい。その間に、実行委員会の立ち上げの日は令和3年1月15日です。

〈休憩中、実行委員会事務局所在地を執行部が確認〉

企画振興課長（岩本展到君） 失礼いたしました。

実行委員会の事務局ですが、地域商社の株式会社ヒューマンリンクで、井原市井原町1536番地1でございます。

委員（三宅文雄君） これは民間のおうちというかそういうふうなところにあるのでしょうか。

企画振興課長（岩本展到君） 会社が入られている建物の住所でございます。

委員（三宅文雄君） ちょっとよく分からないんですが、私が思ったのは、先ほどメンバーはどういった方がおられるのかということで、その事務局というのは井原商工会議所か市役所にあるのかなというふうに理解していたんですけども、それはそれ以外の、だから市役所とか井原商工会議所以外の団体というかそういったところに設置してあるという理解でよろしいですか。

企画振興課長（岩本展到君） そのとおりでございます。

委員（三宅文雄君） それで、先ほど企画振興課長のほうから令和3年1月15日に立ち上げたということを言われましたが、今までに何回ぐらいこの委員会は開催されましたでしょうか。

企画振興課長（岩本展到君） 市の組織でないので、詳細は掌握しておりません。

委員（三宅文雄君） 詳細は掌握してないといっても、市の職員がメンバーに入っているんじゃないんですか、先ほど言われたと思うんですけど。

企画振興課長（岩本展到君） 参加した職員に確認を取りますので、しばらくお待ちください。

〈休憩中、実行委員会の開催実績について執行部が確認〉

企画振興課長（岩本展到君） 今年の4月に会議を1回持っております。

委員（三宅文雄君） 分かりました。4月に1回会議を開いたということで理解をいたしました。

それで、最後にお聞きするんですけれども、財源として一般財団法人地域活性化センター助成金を上げられていますけれども、この団体はいかなる団体になるのでしょうか。

企画振興課長（岩本展到君） 一般財団法人地域活性化センターの助成金を活用しているんですが、これは宝くじの収益金の一部を活用している団体でございます、そういった財源で今回やらせていただくようになっております。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

〈議案第38号 令和3年度井原市産業団地開発事業特別会計補正予算（第1号）〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 原案可決〉

委員長（佐藤 豊君） 以上で議案の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任願いたいと思います。

〈異議なし〉

〈閉会中の継続調査について〉

委員長（佐藤 豊君） 突発的な事件の際、閉会中も継続して調査を行えるよう、別紙のとおり所管事務調査事項を決定し、同様の内容で閉会中の継続調査申出書を議長に提出したいと思います。

〈異議なし〉

委員長（佐藤 豊君） 閉会に当たり、執行部で何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、本日は長時間にわたりまして慎重にご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。最大限の投資効果が得られますよう、タイムリーな執行に努めていきたいと思っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の関係で、生活困窮者に対する自立支援金の支給、これは国の制度でございますが、これにつきまして今議会中に追加で補正予算を提出したいと思っておりますので、引き続き慎重なご審議をお願いしたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

〈議長挨拶〉

委員長（佐藤 豊君） 以上で予算決算委員会を閉会いたします。